

令和 5 年 5 月 20 日現在

機関番号：32689

研究種目：奨励研究

研究期間：2022～2022

課題番号：22H04034

研究課題名 オンライン多文化学習において学習者特性がグループ内の関係性構築に与える影響の研究

研究代表者

猪口 綾奈 (INOUCHI, Ayana)

早稲田大学・日本語教育研究センター・非常勤講師

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 450,000 円

研究成果の概要：本研究の目的は、オンラインを用いた多文化理解学習において、学習者の社会的対人スキルと教師に対する期待値意識がグループ活動での人間関係構築に与える影響について明らかにすることである。調査では社会的スキルを測定する「KiSS-18 (Kikuchi's Scale of Social Skills: 18 items)」(菊池, 1988)を使用し、学習者の特性や意識を分析した。その結果、学習者のグループ活動での人間関係構築において、社会的対人スキルよりも教師への期待値意識の方が影響力があることが検証できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

多文化理解学習は参加者の国籍や文化が多様で日常とは異なる環境のため、学習者の不安が高まりやすい傾向がある。さらに、オンラインによる活動は対面よりも学習者の行動や情意が不安定になりやすく、特にグループでの協働活動の際に摩擦が起きやすい。一方で、摩擦によるグループ活動の停滞は、学習者の特性を考慮したグループ編成によって改善できることが多い。つまり、グループ活動の円滑な実施のためには、学習者個人の社会性や対人スキル、教師への意識を把握し、それらがグループでの関係性構築に与える影響を科学的に検証する必要がある。そしてそれは、オンライン多文化理解学習の効果的な実践に寄与するものである。

研究分野：異文化コミュニケーション

キーワード：多文化理解 グローバル教育

1. 研究の目的

本研究の目的は、オンラインを用いた多文化理解学習において、学習者の社会的対人スキルと教師に対する期待値意識がグループ活動での人間関係構築に与える影響について明らかにすることである。そして、その検証を用いて円滑な協働活動や対話を可能にするグループ編成を行い、グローバル能力を開発するオンライン多文化理解学習の効果を高めることを目的とする。多文化理解学習は参加者の国籍や文化が多様で日常とは異なる環境のため、学習者の不安が高まりやすい傾向がある。さらに、オンラインによる活動は対面よりも学習者の行動や情意が不安定になりやすく、特にグループでの協働活動の際に摩擦が起きやすい。しかし、摩擦によるグループ活動の停滞は、学習者の特性を考慮したグループ編成によって改善できることが多い。ここで言う特性とは、学習者の社会性やコミュニケーション能力、教師に対する期待値などを意味するが、学習者の多様な価値観や行動傾向などがグループの関係性構築に影響し、グループ活動の成否を左右していると考えられる。つまり、グループ活動の円滑な実施のためには、学習者個人の社会性や対人スキル、教師への意識を把握し、それらがグループでの関係性構築に与える影響を科学的に検証する必要がある。本研究では、学習者の多様な価値観や行動傾向がどのようにグループの関係性構築に影響しグループ活動の成否を左右しているかを検証し、学習活動の効果的な実践を目指した。

2. 研究成果

本研究の調査は二調査(調査 1, 2)に分類され、調査 1 では学習者の特性や意識を分析した。分析は、対人関係を円滑にする社会的スキルを測定する「KiSS-18 (Kikuchi' s Scale of Social Skills: 18 items)」(菊池, 1988)を使用し、学習者の行動傾向や価値観を量的な視点から把握した。また、学習者が教師に求める期待値についても検証した。教師への期待値とは、学習者が不安軽減のために教師に求める親近感や共感などの精神的結びつきのことであるが、教師がそれに応えると高い学習効果を得る傾向がある。そのため、学習者と教師の関係性がグループの関係性構築に影響を与える可能性があるとして測定項目に加えた。調査 2 では、調査 1 の分析結果を用いて編成したグループで授業活動を行い、活動後にグループ活動の成果や満足度についてアンケートを実施した。その結果、対人スキルが高く教師への期待値も高いグループについては、活動に対する満足度は高い傾向があった。対人スキルが低いグループについても満足度が減少することはなく、平均以上の満足度を保持していた。一方、教師への期待値が低いグループについては満足度が低い傾向があった。これらの結果から、学習者のグループ活動での人間関係構築において、社会的対人スキルよりも教師への期待値意識の方が影響力がある可能性があることが検証できた。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 猪口 綾奈、田崎 勝也	4. 巻 108
2. 論文標題 外国語学習への期待尺度の開発	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 青山国際政経論集	6. 最初と最後の頁 33～55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34321/22458	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

—

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
----	--------